

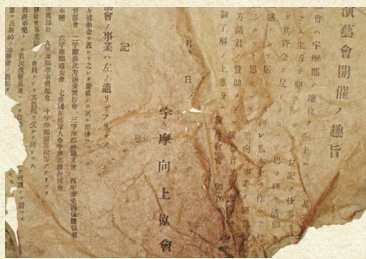
### 東宮山古墳 秘聞

- 木箱の破片が見つない「再会」 -

このページの掲載資料はすべて宮内庁書陵部所蔵（上段2点は『書陵部紀要』第72号〔陵墓篇〕より引用）

#### 「木箱」に眠る 100 年前の記憶

中には鉄片や土器片と共に、当時のチラシなどが収められていた。この紙片に記された地名が、資料の正体を解き明かす鍵となった。



#### 緩衝材（宇摩向上協会の文書）

木箱の中の緩衝材として使用されていた大正時代の紙片。「宇摩」の文字が記されていたことから、資料の帰属を解き明かす証拠となった。

今から100年前、皇居内の宮内省に一つの小さな「木箱」が届けられました。時は明治から令和へ。妻鳥陵墓参考地「東宮山古墳」と、この木箱が織りなす数奇な物語をひもときます。

**伝説の地、妻鳥の「東宮山古墳」**

妻鳥の小高い丘に位置し、木梨（かしのみ）軽皇子の伝説が残る「東宮山古墳」。明治28年に「陵墓参考地」となったこの地は、現在も宮内庁の管理区域となっています。

一昨年、市歴史考古博物館で開催した特別展では、普段は皇居で厳重に保管されている出土品が、特別な許可を得て里帰りを果たしました。40年前の展示ではわずか30点だった資料は、今回約300点が集結。この劇的な再会の背景には、100年前の災害がもたらした数奇な運命が隠されています。



#### 接合した東宮山古墳出土品

下部が木箱から発見され、上部は別の陵墓の出土品とされていたもの。両者が接合したため、上部が東宮山古墳出土品であると証明された。

**100年の時を越え、再会**

平成から令和に移り、蔵の木箱が宮内庁の専門家によって分析されました。箱を開けると、そこには鉄片と共に古い紙片が同梱されていました。その紙には「宇摩」「妻鳥村」

#### 震災の混乱と、蔵に眠る「木箱」

大正12年、関東大震災が発生。皇居内に保管されていた陵墓の出土品も激しい揺れで混交し、東宮山古墳の資料も判明した30点を除き、多くが帰属不明として歴史の闇に埋もれてしまいました。

しかし、当時の公文書には、それを上回る資料が妻鳥村から送られた記録が残っていました。所在不明となった多くの出土品。その影で、一つの「木箱」が、誰にも知られることなく宮内庁の蔵の片隅で、静かに時を刻んでいたのです。

の文字が……。100年前に当市から届けられた資料であることを示す証拠が見つかった瞬間でした。

更に、箱の中の小さな鉄片を精査すると、驚くべき事実が判明しました。別の陵墓の資料とされていた鉄器や金銅製品の欠落部分と接合したのです。一見すると鉄くずに見えた破片は、実は副葬品の一部でした。判明した資料は300点にも及ぶことから、東宮山古墳が多種多様な副葬品を持つ有力な古墳であったことを示しています。

#### 未来へつなぐ、100年の教訓

いくつかの偶然とそれぞれの時代を生きた人々が見つないだ、東宮山古墳に秘められた物語。これは、いつ起こるか分からない災害に対する、日々の備えの大切さを私たちに伝えています。

#### 特別展図録 頒布中！

『妻鳥陵墓参考地「東宮山古墳」』

最新の調査で判明した約300点の出土資料を収録しました。

円 1冊 1000円

**場所** 生涯学習課  
28-6043  
歴史考古博物館  
- 高原ミュージアム -  
28-6260

